

石の記憶

絹谷幸太

彫刻の素材である石は、何千万・何億という地球の情報が詰まったタイムカプセルである。石を眺めながら、かつての地球を想起することが、私の制作の重要なプロセスとなる。この度の展覧会「絹谷幸太・石の記憶 -」で選定した石を幾つか紹介したい。

先ず、オーストラリア産の石。今から約 34 億年前の海底火山活動でできた玄武岩（緑色）とその間を埋めている石灰岩（白色）である。地球が誕生して約 10 億年後の海の情報が詰まっている。私は、制作中『ハッ』と手が止められた。34 億年前の「雲」が突如出現したかと思った。それは長い間眺めていたくなるほど、不思議さを秘めていた。

東洋の古い教えに「雲根過影（うんこんかえい）」という哲学がある。「大地の石は宇宙の靈気を宿し、石と雲とが有機的に繋がり合う」という思想である。正に「哲学の石」だと思った。

次に、ブラジル産青色花崗岩（ソーダーライト）。「青」は自然界において極めて貴重な鉱物である。例えるなら、135 億光年の宇宙で、生命が存続できる唯一の星は、青い地球だ。「生命の色彩・地球」を彷彿とさせる石である。私は、この石を求めブラジルに留学した。バイーア州で産出する約 5 億年前の石である。カウンターパート（対岸）のアフリカでも産出する。つまり、パンゲア超大陸の分裂（約 2 億年前）によって引き裂かれ、激しい地殻変動によって縦横無尽の亀裂が石にもたらされた。地下の熱水が岩石に染み渡り亀裂を修復させた。白と緑の模様は、大陸移動の化石とも言えるだろう。一度切れた関係やこじれたものを自然は修復した証でもある。これは、現代の世界情勢に対する大きなメッセージではないだろうか？と、私は考えた。遠くから、そして微かに聞える「ガイア・石の記憶 -」に五感を傾けて行きたい。

最後に、マダガスカル産のラブラドライト（アノーサイト）は先カンブリア時代の石（南アフリカに約 20 億年前のアノーサイトが産出する。おそらくマダガスカルの石も約 20 億年前の石と思われる）。一見すると、くすんだ黒っぽい石であるが、ある方向から光を浴びると、海の底から見上げる太陽のような輝きを放つ（大部分がカルシウムが多く含まれた斜長石からできている）。割った瞬間の光明によって、新しい作品が世に誕生した。

億年単位の地球の歴史・蓄積は、我々人類を深遠なる地平へと導いてくれる。我々人間が、次の次元に行く「鍵」は、おそらく鉱物に記されているのではないだろうか？

人類が誕生して約 700 万年間。絶えず自然から学んできた。この先、どんなに科学技術が進歩し続けようとも、人類は自然に学び続けるだろう。

謙虚に自然に向き合い、雲のように・風のように、自由に彫刻を造り続けたい。

2018 年 1 月 31 日